

日露地域交流年開会式
鈴木外務副大臣御挨拶

イリチョフ経済発展次官、
ガルージン大使、
鈴木北海道知事、
御列席の皆様、
オンラインで参加頂いている日露の地域の関係者の皆様、

2019年6月の日露首脳会談で、当時の安倍総理、プーチン大統領の肝いりで開催が決定され、また、菅前総理、岸田総理と引き継いでこられたこの日露地域交流年が、2年越しで開会式を迎えられたことを心から嬉しく思います。私からも改めて、日本とロシアの友好関係の発展に携わっておられる全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

また、今回の開会式が、オミクロン株の流行によりロシアや日本各地からのゲストを迎えて開催できなかったことは、本当に残念でなりません。この機会に、新型コロナで亡くなられた日露両国の方々には心からお悔やみ申し上げますとともに、現在療養中の方々にお見舞い申し上げます。また、新型コロナ感染拡大の防止にご協力いただいている全ての皆様に心からの感謝と敬意を表させていただきたいと思っております。

ロシアは重要な隣国であり、そのロシアと安定的な関係を構築することは、日本の国益のみならず、世界の安定と発展にとっても極めて重要です。昨年11月の日露首脳電話会談においても、両首脳は、政治、経済、文化等幅広い分野で日露関係全体を互恵的に発展させていくことで一致したところではあります。例えば、COVID-19の迅速検査キットの共同開発や、エネルギー分野など、様々な分野での日露協力が具体的に進んでいます。

こうした国レベルでの関係を構築していく上で、基礎となるのは人間関係です。互いの国民の間の信頼こそが、外交関係を良くするための鍵となります。日本、ロシア両国の力を結集し、日露関係全体を大きく発展させる力にして参りましょう。

こうした大きな目的のもとに、日露の交流の裾野を地域に広げるべく、2020年から日露地域交流年が開催されています。新型コロナの影響により様々な困難がありますが、オンラインなどを活用して、民間レベルでの交流がプログラム数にして実に340件以上実施されてきています。例えば、漫画教室、お笑い、e-sportsなどの斬新なテーマでの交流も、オンラインで活発に行われています。関係者の皆様の創意工夫とご尽力に心より敬意を表します。

本日は、日露地域交流年の開会式を飾るべく、日本における先住民族アイヌの古式舞踊、ロシアと交流を行っている北海道の高校生による吹奏楽、バラライカや和太鼓の演奏等が披露されると聞いています。また、演目の披露だけでなくこれまでのロシアとの交流を通じて得られた学びや気づき、今後の抱負についてもご紹介いただけると伺っております。正に交流のための交流ではなく、互いを理解しあうための交流の賜物であると、大変楽しみにしております。

日露間には解決すべき問題もあります。だからこそ、交流を深めることが、課題を次世代に先送りせず解決するための一助であると思います。日露地域交流年を契機として、日露関係に携わる方々の輪が広がり、また、それを基盤として、両国間、両国地域間の交流が飛躍的に発展することを祈念し、私も先頭に立つことをお約束し、私のお祝いの挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。スパシーバ。